

331 陰のう内病変における Scrotal scintigraphy の有用性について 一特に精索捻転と精索静脈瘤の診断について

大塚信昭, 森田陸司, 福永仁夫, 曾根照喜,
友光達志, 柳元真一, 村中 明 (川崎医大
核医学)
斎藤典章, 天野正道, 田中啓幹 (同 泌尿器)

陰のうの腫脹, 疼痛, 不快感をきたす疾患のうち特に救急的処置を必要とする捻転と, 男性不妊の面から精索静脈瘤の有無を早期に診断することは臨床的重要である。我々は昭和 55 年 2 月より昭和 59 年 5 月までに捻転と副睾丸炎あるいは他の原因による陰のうの腫脹をきたし捻転との鑑別を必要としたもの 32 例, 精索静脈瘤の疑い 30 例, その他陰のう内容疾患 12 例 (停留睾丸 4 例, 睾丸腫瘍 4 例, 外傷 4 例) につき Scrotal Scintigraphy を施行した。方法として Tc-99m-pertechnetate または Tc-99m-HSA を bolus 注入し angiographic phase と static phase にて検討を行った。Scintigraphy 上捻転と診断したもの 12 例であり, false negative は 1 例も認めなかった。それに対して Doppler 法は約半数で診断が不可能であった。また, 精索静脈瘤は 11 例に認め, sub-clinical な精索静脈瘤の検出にも役立つものと考えられた。

332 RI-リンフォグラフィにおける子宮腔部粘膜炎下注法と足背皮下注法との比較

西 陸正, 藤田卓男, 赤松信雄, 福本 悟,
関場 香 (岡大・婦), 青野 要 (岡大・放)

昭和55年から57年の間に当院で広汎性子宮全摘術を施行した子宮頸癌30例(60側)に対して, 子宮腔部局注法と足背皮下注法の両手技によるRI-リンフォグラフィを施行し, その結果を比較検討した。その結果, 49側の転移陰性例では経子宮腔部法によるリンパ節造影率は総腸骨節21側(43%), 外腸16側(33%), 内腸28側(57%), 閉鎖9側(18%), 子宮旁リンパ節3側(6%)であつた。(このうちRI注入困難な巨大花菜状癌を除けば, それぞれ67%, 56%, 83%, 28%, 6%)。又, 経足背法では総腸骨節41側(84%), 外腸36側(73%), 内腸49側(100%), 閉鎖13側(27%), 子宮旁リンパ節0側であつた。一方, 11側の転移陽性例では15箇所のリンパ節に癌浸潤がみられ, うち経子宮腔部法では14箇所(93%)にリンパ節の欠損像が認められたが, 経足背法では6箇所(40%)にしか欠損像は認められなかつた。以上のことから, RI-リンフォグラフィではリンパ節の造影率は経足背法が優れているが, False negative かかなり含まれ, 他方経子宮腔部法は技術的な問題がみられるが, true negative の診断には非常に優れていると思われた。

333 Tc-99mアプロチニンによる乳房スキャンの検討

辻 比呂志(北大 放), 中駄邦博, 藤森研司
(同 核), 斎藤博哉, 伊藤和夫, 竹井秀敏(同 放)
古館正従(同 核), 入江五朗(同 放),
秦 温信(同 外)

アプロチニンは抗トリプシンおよび抗キニン作用を有し, 肺炎やショック時の治療薬として用いられている。腎皮質スキャン用剤として開発されたTc-99m標識アプロチニンの乳腺腫瘍への親和性に関して臨床的検討を加えた。

対象は臨床的に乳腺腫瘍と診断された17例で, 悪性腫瘍14例(乳頭腺癌 5例, 嚢様腺癌 6例, その他 3例), 良性腫瘍 3例であった。これらの患者に対しTc-99mアプロチニン(レノシスキット, CIS Co., フランス) 4 mCi を静注し, 15分像, 3時間像を中心としたイメージングを行なった。

原発部に一致する陽性所見は13例に認められ, 悪性腫瘍71%(10/14), 良性腫瘍 100%(3/3)で, 悪性 3例では触知する乳房外リンパ節に集積を認めた。

Tc-99mアプロチニンは乳腺腫瘍には高い親和性があることが示された。さらに, 良性か悪性かの鑑別や病期決定への有用性についても検討を加えた。